岐路に立つ著作権：Kadrey 判決と Bartz 判決の分析と生成 AI に対するその世界的影響

Gemini Deep Research

第 1 部：エグゼクティブサマリー：主要な調査結果と戦略的展望

カリフォルニア州北部地区連邦地方裁判所から数日のうちに相次いで下された *Kadrey v. Meta* および *Bartz v. Anthropic* の略式判決は、人工知能（AI）と著作権法の交差点における法的状況を明確にするどころか、逆説的に、より大きな不確実性を生み出しました。両判決は、AI のトレーニングが著作権法上の「変形的（transformative）」なフェアユースに該当し得るとの判断で一致しましたが、データ・パイラシー（海賊版データの利用）と市場への影響という極めて重要な争点において全く異なる論理を展開したため、AI 開発者とコンテンツ制作者の双方にとって、法的リスクの予測が困難な、重大な法的分裂を生み出しています。

主要な調査結果 1（変形性のコンセンサス）：両裁判所は、大規模言語モデル（LLM）のトレーニング目的で著作物を利用する行為を、「高度に」または「見事に」変形的であると明確に位置づけました。これは、AI モデルをトレーニングするという技術的プロセスが、取り込まれた著作物の本来の表現的目的とは根本的に異なる目的を果たすという点で、フェアユースの 4 要素分析における第 1 要素（利用の目的と性格）において、AI 開発者側に有利な強力な判例を形成するものです¹。

主要な調査結果 2（パイラシーのパラドックス）：両判決は、海賊版データの利用が持つ法的重要性について、真っ向から対立しています。*Bartz* 判決は、「罪の分離」とも言うべき理論を確立しました。すなわち、海賊版ライブラリを構築するという最初の行為は、その後のトレーニング目的でのデータ利用がフェアユースと見なされるか否かにかかわらず、それ自体が独立した著作権侵害行為であると判断しました²。対照的に、

Kadrey 判決は、海賊行為を「最終的な変形的目的」の中に包含させ、フェアユース分析において決定的な要素とはならない「悪意（bad faith）」の問題として扱いました⁴。この判断の相違は、AI 開発者が直面する法的リスクの評価において、深刻な断層を生み出しています。

主要な調査結果 3（市場への影響という主戦場）：これらの一連の訴訟は、AI フェアユースを巡る法廷闘争の主戦場が、第 4 要素（著作物の潜在的市場または価値に対する影響）へと完全に移行したことを明らかにしました。特に *Kadrey* 判決は、「市場の希釈化（market dilution）」という、影響力の大きい新たな法理を提示しました。これは、AI が直接的な侵害物（代替品）を生成せずとも、競争的な作品で市場を飽和させることによって、人間の創作物の市場を害する可能性があるという考え方です⁸。しかし、Meta 社がこの訴訟で勝訴した事実は、この理論を証明するためには、原告側が具体的な経済的証拠をもって高い立証責任を果たさなければならないことを示しています³。一方、

Bartz 判決は、同様の懸念を「学童に作文を上手に書くよう訓練する」ことになぞらえて退けており、AI がもたらす市場競争の性質について、裁判官の間で深い見解の相違があることを浮き彫りにしました⁵。

AI 開発者への戦略的展望：データの出所（data provenance）の管理は、今や最優先の法的・財務的リスクとなりました。*Bartz* 判決、そして海賊版ライブラリを巡る集団訴訟で科される可能性のある莫大な法定損害賠償¹²を考慮すると、「シャドウライブラリ」への依存は事業存続を脅かすリスクとなり得ます。データサプライチェーンを監査し、ライセンス契約を積極的に追求する戦略は、もはや法務上の推奨事項ではなく、事業継続のための必須要件です²。

コンテンツ制作者への戦略的展望：*Kadrey* 判決は、今後の訴訟戦略の明確な、しかし困難なロードマップを提示しています。勝訴の鍵は、市場の希釈化を証明するための、専門家による堅牢な経済的証拠を提示できるかどうかにかかっています⁹。データ収集の不正義を訴える倫理的・法的な主張だけでは不十分です。同時に、これらの判決は公式なライセンス市場の成長を加速させており、クリエイターにとって新たな、そして極めて重要な収益源を生み出しています¹⁴。

グローバルな文脈：米国における柔軟で事例ごとの司法判断は、日本の目的ベースの例外規定や、EU の権利者によるオプトアウト権を伴う TDM 例外規定といった、より構造化されたルールベースの制度とは対照的です。この法制度の断片化は、グローバルに事業を展開する AI 企業にとって、複雑なコンプライアンス上の課題をもたらしています¹⁷。

第 2 部：事例分析 I：*Kadrey v. Meta Platforms, Inc.* - 市場への影

響の優位性

2.1 訴訟の経緯と事実背景

当事者と請求内容

この訴訟は、サラ・シルバーマンやリチャード・カドレイを含む著名な作家グループが、Meta Platforms 社を相手取り、同社の LLM シリーズ「LLaMA」のトレーニングに彼らの書籍を使用したとして、直接のおよび間接的な著作権侵害、デジタルミレニアム著作権法（DMCA）違反などを主張して提起されました²⁰。

Meta 社のデータ調達

裁判所の認定によれば、Meta 社は原告らの書籍を、Library Genesis、Z-Library、Anna's Archive といった、海賊版コンテンツを提供する既知のオンライン「シャドウライブラリ」から膨大なデータセットをダウンロードすることによって入手しました⁷。訴訟の過程で開示された Meta 社の社内文書からは、同社がトレーニングにおける書籍の価値を高く評価しており、出版社からのコンテンツライセンス取得の試みを断念した後、これらの海賊版サイトに意図的にアクセスしたことが明らかになりました⁷。

略式判決への道筋

初期の段階で、LLM 自体が侵害的な二次的著作物であるという主張など、原告のいくつかの請求が棄却された後、訴訟の核心的な争点は、トレーニング目的の複製行為がフ

フェアユースに該当するかどうかには絞られました²²。両当事者が略式判決を申し立てた結果、ヴィンス・チャブリア判事は2025年6月25日に本判決を下しました³。

2.2 フェアユース分析の解剖：4 要素の個別検討

第1要素：利用の目的と性格

「高度な変形性」

チャブリア判事は、この要素がMeta社に強く有利に働くと判断しました。書籍を利用する目的、すなわち多様な計算処理や生成タスクを実行可能な多機能ソフトウェアツールをトレーニングするという目的は、娯楽や教育のために読まれるという書籍本来の目的とは根本的に異なると結論付けました³。判事は、人間が本を読む行為との類推を退け、LLMトレーニングの技術的性質と、モデルが「創造的表現を指数関数的に増殖させる」可能性を強調しました⁴。

商業性と悪意

裁判所は、Meta社の利用が商業的であることを認めつつも、その変形性の高さが商業性を上回ると判断しました³。重要な点として、裁判所はMeta社が海賊版サイトを利用したことを「悪意」の問題と見なしましたが、高度に変形的な利用を前にしては、これを二次的かつ非決定的な考慮事項と位置づけました。ダウンロードという行為は、最終的なトレーニング目的と不可分であると見なされたのです⁴。

第2要素：著作物の性質

この要素は、原告らに有利と判断されました。対象となった著作物は、小説、回顧録、戯曲といった創造性が高く表現豊かな作品であり、著作権保護の核心に位置づけられるためです。しかし、この要素が判決全体を左右することはありませんでした³。

第3 要素：利用された部分の量と実質性

Meta 社は著作物全体を複製していました。しかし裁判所は、高品質な LLM をトレーニングするという変形的な目的を達成するためには、著作物全体の複製が「合理的に必要」であったとして、この要素も Meta 社に有利に働くと判断しました³。さらに、LLM が著作物の実質的な部分を再生成（regurgitate）しなかったことから、全体の複製が市場での代替リスクを高めるものではないとも指摘しました³。

第4 要素：著作物の潜在的市場または価値に対する影響

決定的な要素

チャブリア判事は、この第4 要素を「フェアユースにおいて疑いなく最も重要な単一の要素」とであると明言しました⁷。

原告の主張の棄却

裁判所は、原告が提示した市場への損害に関する2つの主要な理論を退けました。第一に、「再生成」に関する主張は、証拠不足を理由に退けられました。専門家の証言をもってしても、LLaMA が敵対的なプロンプトに回答した場合でさえ、些細な50語を超える断片を生成することを示すことはできませんでした³。第二に、「ライセンス市

場の喪失」に関する主張は、循環論的であるとして棄却されました。裁判所は、フェアユースに該当しうる利用に対して、著作権者がライセンスを要求するだけで新たな市場を創出し、損害を主張することはできないと述べました³。

立証の失敗

最終的に Meta 社が略式判決で勝訴したのは、原告らが勝訴の可能性があった「市場の希釈化」という議論について、「ほとんど言及しておらず」、それを裏付ける有意義な証拠を何一つ提示しなかったためです⁷。この判決は、Meta 社の行為の適法性を認めたものではなく、あくまで原告側の立証失敗に基づく技術的な勝利でした³。

2.3 「市場の希釈化」理論：フェアユースの新たなフロンティア

理論の定義

チャブリア判事は、市場への損害に関する新たな類型として「市場の希釈化」という概念を詳細に論じました。この理論は、AI トレーニングが、直接的な代替品（すなわち、侵害的な複製物）を生成することによってではなく、たとえ非侵害的な作品であっても、競争的な作品を市場に大量に供給することを可能にし、それによって人間が創作した作品の認知度や売上を低下させ、結果として創作への経済的インセンティブを損なうことによって、著作者に損害を与えるというものです⁸。

前例のないスケール

裁判所は、「これほど変形的であると同時に、原作の市場を希釈化する能力を持つ利用は、過去のいかなる判例にも存在しない」と認めました⁹。AI による生成の圧倒的な規

模と速度は、これまでのいかなる技術とも一線を画し、希釈化という概念を「極めて重要なもの」にしています⁹。

立証の壁

この理論の有効性を認めつつも、判事はその立証に極めて高いハードルを設定しました。市場の希釈化を証明するためには、将来の原告は、経済学者などの専門家による具体的かつ実証的な証拠を提示する必要があります。具体的には、(1) 対象となる AI モデルが同ジャンルの長編作品を生成可能であること、(2) それらの作品が大規模に市場に流通していること、(3) 読者が原告の作品の代わりに AI 生成作品を明確に選択していること、そして(4) この競争上の損害が、モデルが原告の保護された表現を学習したことと直接起因していること、を証明することが求められます⁹。

将来の訴訟へのロードマップ

判事がこの理論を詳細に論じ、その上で原告がこの点を展開できなかったことを批判したことは、将来の訴訟当事者に対する明確なシグナルとして機能します。判事は、適切な証拠記録があれば、「市場の希釈化は、多くの場合、原告が第 4 要素で決定的に勝利し、ひいてはフェアユース問題全体で勝利する原因となるだろう」と明言しています⁹。

2.4 第二、第三の洞察

Kadrey 判決は、AI トレーニングを無条件に許可するものではなく、むしろ AI 企業に対する著作権訴訟で成功するための司法的な「手引書」としての性格を帯びています。裁判所は、原告の立証不足を繰り返し強調し³、この判決が「Meta 社の利用が合法的であることを示すものではない」と明言しています⁷。その上で、クリエイター側に有利な「市場の希釈化」という新たな法理を詳細に展開し⁸、原告がまさにその点について証拠を欠いていたことを対比させ、「間違った議論」をしたと事実上叱責しています

7。さらに、判決の傍論 (dicta) では、「多くの場合、AI トレーニングは違法となる可能性が高い」とまで述べています¹⁰。これらの点から導き出される結論は、この判決が持つ真の機能が教育的であるということです。チャブリア判事は法曹界に対し、クリエイターの勝訴への道はAIの変形性を争うことではなく、その経済的影響を専門家の証言や市場分析を通じて丹念に立証することにあると示唆しているのです。彼は、クリエイターにとって最も強力な法的武器を提示すると同時に、その武器を使いこなせなかった原告に対しては敗訴を言い渡したのです。

一方で、この判決が海賊版データの利用を扱った手法は、法的に不安定で他の司法判断と矛盾する、「目的は手段を正当化する」という危険な前例を生み出しました。裁判所の論理は、「最終的な利用」(トレーニング)が変形的であったため、その前段階の行為である海賊版ライブラリからの「ダウンロード」もまた変形的であると見なす、というものです⁷。このアプローチは、潜在的に二つの異なる侵害行為(不正な取得とトレーニング目的の不正利用)を一つの分析ステップに集約してしまっています。これは、後述する

Bartz 判決がこれらの行為を慎重に分離し、前者を侵害、後者をフェアユースと判断したアプローチと真っ向から対立します。この結果、カリフォルニア州北部地区という同じ裁判所内で、AI企業が海賊版データを利用した場合の法的責任が、どの裁判官に事件が割り当てられるかによって左右されかねないという、「裁判官ショッピング」の問題を生じさせています。*Kadrey* 判決のこの部分は、控訴審において最も脆弱な点となるでしょう。これは、明らかに違法な行為(大規模な海賊行為)が、その後の合法とされうる行為によって遡及的に浄化されるという、容認しがたい法的グレーゾーンを創出します。これは、商業的にリスクが高く、倫理的にも問題のある「聞かざる、言わざる」式のデータ調達を助長しかねません。

第3部：事例分析II：*Bartz v. Anthropic PBC* - パイラシーと変形的利用の二分的アプローチ

3.1 事実の概要：2つのデータセットの物語

当事者と請求内容

この訴訟は、Claude LLM の開発元である Anthropic 社に対し、そのトレーニング手法を根拠として作家らが提起した集団訴訟であり、著作権侵害を主張するものです⁵。

二元的なデータ取得戦略

Anthropic 社は、「世界中のすべての本」を収めた中央ライブラリを構築するため、2つの異なる手法を採用しました¹。

- **海賊版ライブラリ**：Anthropic 社は、Books3 や Library Genesis (LibGen) といった悪名高い海賊版サイトから 700 万冊以上の書籍をダウンロードしました。社内メールからは、ライセンス契約という「法的・実務的・商業的な煩雑さ」を避けるために、意図的に書籍を「盗む」という選択をしたことが明らかになっています⁵。
- **破壊的スキャン**：同時に、Anthropic 社は数百万冊の物理的な書籍を合法的に購入し、それらをデジタル形式にスキャンした後、物理的な原本を破棄するという手法も用いました¹。

裁判所の分析枠組み

ウィリアム・アルサップ判事は、Anthropic 社の行為を(1)中央ライブラリの構築、および(2)そのライブラリの一部を特定の LLM のトレーニングに利用する、という 2 つの異なる「利用」に分離する原告側の分析枠組みを採用しました。この分析上の分離が、判決の結論にとって決定的に重要でした⁵。

3.2 「見事に変形的」な利用：トレーニングに関するフェアユース分析

第1要素：利用の目的と性格

「典型的な変形性」

アルサップ判事は、チャブリア判事よりもさらに強い言葉を用い、LLM のトレーニングに書籍を利用することを「見事に (spectacularly)」かつ「典型的に (quintessentially)」変形的であると評しました¹。彼はこのプロセスを、作家志望の人間が、既存の作品を置き換えるためではなく、そこから着想を得て全く新しいものを創造するために読書をする行為になぞらえました⁵。

侵害的な出力の不存在

この判断における重要な要素は、原告らが Claude の出力が自分たちの著作物の侵害的な複製物であると主張しなかった点です。裁判所は、もし出力が侵害的であったならば「話は別だった」と明示的に言及しており、出力の非侵害性がフェアユース判断の核心にあったことを示唆しています¹。

第3要素：利用された部分の量と実質性

Kadrey 判決と同様に、裁判所は、強力な LLM をトレーニングするという変形的な目的を達成するためには、著作物全体の複製が「合理的に必要」であったと認定しました⁵。

第4要素：著作物の潜在的市場に対する影響

市場への損害の否定

アルサップ判事は、原告の市場損害に関する主張を明確に退けました。彼は、「競争的な作品の爆発的増加」という懸念に対し、それは「学童に作文を上手に書くよう訓練すれば、競争的な作品が爆発的に増えるだろうと不平を言うようなもの」であり、著作権法が保護する対象となる競争ではないと一蹴しました⁵。

ライセンス市場の否定

彼はまた、ライセンス収入の喪失という主張も、チャブリア判事と同様に循環論的であるとして退けました⁴⁰。

トレーニングに関する総合的判断

裁判所は、トレーニングに利用された書籍が海賊版サイトから入手されたか、合法的に購入・スキャンされたかにかかわらず、トレーニング目的での利用はフェアユースであると結論付けました。著作物の性質（第2要素）を除くすべての要素が Anthropic 社に有利に働くと判断されました⁵。

3.3 罪の分離：パイヤシー、ライブラリ、そしてフォーマットシフト

海賊版ライブラリ（フェアユースではない）

これが本判決の核心部分です。アルサップ判事は、海賊版書籍をダウンロードし、恒久

的なデジタルライブラリを構築・保持する行為は、トレーニングとは別の、変形的ではない独立した利用であり、フェアユースには該当しないと断じました²。

- **論理**： 裁判所は、「対価を支払わずに研究用ライブラリを構築するためにコピーを海賊版で入手すること...は、それ自体が独立した利用であり、変形的なものではない」と述べました³⁵。この行為は、正規の複製物の市場を直接的に代替するものです。将来的にトレーニングという変形的な目的に利用される可能性があったとしても、そのことが最初の大量海賊行為を遡及的に正当化することはないとしました⁶。この侵害行為に関する損害賠償額を決定するため、訴訟はトライアル（事実審理）へと進むこととなります³²。

購入・スキャンされたライブラリ（フェアユースである）

対照的に、裁判所は、合法的に購入した物理的な書籍をデジタル化し（そして原本を破棄し）、ライブラリを構築する行為はフェアユースに該当すると判断しました¹。

- **論理**： これは許容される「フォーマットシフト」であり、流通するコピーの総数を増やすことなく（デジタルコピーが破棄された物理コピーに取って代わるため）、保存性と検索性を向上させるという点で変形的であると見なされました⁶。**Anthropic** 社は既に所有するコピーに対して対価を支払っているため、この行為が市場を侵害することはないと判断されました⁶。

3.4 第二、第三の洞察

Bartz 判決は、「データの出所」を重視する新たなコンプライアンス要件を AI 業界に課すものです。これにより、データ取得の「方法」が、その利用の「内容」や「目的」と同等に法的に重要視されることとなります。この判決の中心的な革新性は、取得・保管という行為と、トレーニングという行為を法的に分離した点にあります⁵。海賊版ライブラリの構築をそれ自体で侵害行為と認定することで、裁判所はデータ調達が単なる背景事実ではなく、独立した侵害行為となりうることを明確にしました。これは、トレーニングにおける「変形的利用」の抗弁が、データ取得方法の違法性に対する免罪符にはならないという強いシグナルです²。この判断がもたらす財務的影響は甚大です。裁判所が海賊版ライブラリに関する集団訴訟を認定したことで、**Anthropic** 社は事業存続

を脅かしかねない、数十億ドル規模の法定損害賠償に直面する可能性が出てきました¹²。この戦略的含意は、AI 企業がもはやデータソースに対して無関心ではいられないということです。

Bartz 判決は、データガバナンスを「ベストプラクティス」から「危機管理の核心的機能」へと格上げしました。企業の法務部門は、トレーニングコーパスの厳格な監査を要求し、海賊版コンテンツを特定・排除しなければなりません。この一点から生じる法的・財務的リスクは、壊滅的なものになりうるのです。

一方で、アルサップ判事が市場希釈化の懸念を「学童の訓練」になぞらえて退けたことは、チャブリア判事との間に深い哲学的断絶を生み出しました。これは、司法が生成 AI によってもたらされる特有の経済的脅威を分析するための、一貫した枠組みを欠いていることを露呈しています。アルサップ判事の類推⁵は、AI を創造性を高める学習ツールと捉え、AI 生成物との競争を、新たに技能を習得した人間との競争と機能的に同一視しています。これに対し、

Kadrey 判決のチャブリア判事は、この類推を「不適切」として明確に否定し、AI の持つ前例のない規模と速度、すなわち一人のユーザーが商業テキストを大量生産できる能力こそが、人間の学生とは根本的に異なる脅威であると指摘しました⁹。これは単なる見解の相違ではなく、根本的なパラダイムの衝突です。アルサップ判事は AI を「程度の差」（より速い学生）と見なし、チャブリア判事はそれを「種類の差」（市場飽和のエンジン）と見なしています。生成 AI の核心的な経済的性質に関するこの司法上の分裂は、今後の法的予測における最大の不確実性要因です。これは、フェアユースの最も重要な要素の判断結果が、担当裁判官によって大きく変動しうることを意味します。この不確実性は、さらなる訴訟を誘発すると同時に、どちらの当事者も法廷での勝利を確信できないため、ライセンス契約のような司法的解決以外の道を模索する圧力となるでしょう。

第 4 部：比較司法分析：パイラシーと市場希釈化に関する分岐点

4.1 カリフォルニア州北部地区の内部対立

本セクションでは、二つの判決間の核心的な意見の相違を統合的に分析します。この対立が、AI 関連訴訟の震源地である同じ連邦地方裁判所内で生じたという事実は、これらの問題が最終的に第 9 巡回区控訴裁判所に持ち込まれることをほぼ確実にするものです³⁹。

4.2 表 : *Kadrey v. Meta* と *Bartz v. Anthropic* の比較分析

この表は、二つの画期的な判決における主要な法的・事実的相違点を一目で理解できるように視覚化することを目的としています。これは、法的状況の輪郭を迅速に把握する必要がある利害関係者にとって非常に価値のあるものです。

法的争点 / フェアユース要素	<i>Kadrey v. Meta</i> (チャブリア判事)	<i>Bartz v. Anthropic</i> (アルサップ判事)	主要な相違点と戦略的含意
第 1 要素 : 変形性	「高度に変形性」。ツールをトレーニングする目的は本を読むこととは異なる ⁴ 。	「見事に変形性」。人間が文章を学ぶことに類似 ¹ 。	コンセンサス。両裁判所はこの点で強く一致。AI 開発者は第 1 要素で強力な主張が可能。
海賊版データの扱い	最終的な変形的目的の中に包含される。決定的な要素ではない「悪意」の問題 ⁴ 。	トレーニングから分離。海賊版ライブラリの構築は、独立した非変形的な侵害行為 ² 。	直接的対立。大きな不確実性を生む。 <i>Bartz</i> はデータ出所の監査を義務付ける一方、 <i>Kadrey</i> は軽微な要素と示唆。
第 4 要素 : 市場への影響	「市場の希釈化」は、AI の規模を考慮すると、原告にとって有効かつ勝訴の可能性のある理論 ⁹ 。	市場への損害の懸念は「学童に作文を教える」こととの類推で退けられる ⁵ 。	直接的対立。AI の経済的性質に関する根本的な意見の相違を反映。訴訟の成否は、どちらの判事の哲学が採用されるかに依存しうる。

第4要素：ライセンス市場	循環論法として棄却 ³ 。	循環論法として棄却 ⁴⁰ 。	コンセンサス。両裁判所は、クリエイターが単にライセンス市場を主張するだけでは損害を証明できないという点で一致。
総合的な判決	原告が市場への損害を立証できなかったため、フェアユースに関して Meta 社に略式判決 ³ 。	分割された略式判決：トレーニングとフォーマットシフトはフェアユース。海賊版ライブラリはフェアユースではない ⁵ 。	Kadrey は Meta 社にとって手続き上の勝利。 Bartz は実質的な分割判決。 Anthropic 社は莫大な損害賠償リスクに直面する一方、 Meta 社は現時点ではそのリスクを免れている。

4.3 パイラシーのパラドックス：違法行為はフェアユースを生みうるか？

このセクションでは、対立する法哲学をさらに深く掘り下げます。**Kadrey** 判決のアプローチは、フェアユースには「毒樹の果実」の法理が適用されず、最終的な目的が汚染された起源を浄化しうることを示唆しています⁷。一方、

Bartz 判決は各行為を個別に評価し、フェアユースは先行する犯罪行為に対する「免罪符」ではないと主張します⁶。この分析は、データガバナンスと企業責任に与える深刻な影響を論じます。

4.4 市場への影響の未来：「市場の希釈化」は現実的な脅威か？

Kadrey 判決後における「市場の希釈化」理論の実行可能性を分析します。原告は敗訴したものの、この理論自体は裁判所によってその有効性が認められ、米国著作権局が示した懸念とも共鳴するものです⁴²。本セクションでは、この理論を証明するために必要

とされる証拠の種類、すなわち計量経済モデル、市場シェア分析、消費者行動調査などを探求し、原告と被告の双方が訴訟の初期段階から経済専門家を関与させることの戦略的重要性を論じます⁹。

第 5 部：国際的な法的状況：比較研究

5.1 はじめに：フェアユースを超えて

このセクションでは、米国の事例ごとの司法判断に基づくアプローチが、AI と著作権を規制する複数のグローバルモデルの一つに過ぎないことを示します。コモンローと大陸法といった法伝統の違いや、イノベーション促進とクリエイター保護という政策優先順位の違いが、いかに異なる解決策を生み出すかを明らかにします。

5.2 日本の著作権法第 30 条の 4：「非享受」目的の例外

法的基準

日本の著作権法第 30 条の 4 は、「著作物に表現された思想又は感情の享受を目的としない」利用を許容しています¹⁷。情報解析を目的とする AI トレーニングは、この許容される「非享受」利用の典型例とされています¹⁷。

ただし書き

しかし、この例外規定には、「著作権者の利益を不当に害することとなる場合」には適用されないという重要な制限が付されています¹⁷。このただし書きは、米国のフェアユース第4要素と同様の、権利者保護のための安全装置として機能します。

文化庁の解釈

文化庁が示す解釈によれば、海賊版サイトからのデータ利用や、有料データベースを回避して販売目的のデータセットを構築する行為は、「不当に利益を害する」場合に該当する可能性が示唆されています⁴⁹。

比較による洞察

日本の枠組みは、AI トレーニングに対して当初はより寛容（目的に基づく明確な法的許容）であるように見えますが、「不当な利益侵害」という柔軟な条項を通じて不確実性を内包しており、その解釈はまだ法的に確立されていません。これは、イノベーションを優先しつつも、クリエイターの権利を保護するためのセーフティバルブを確保するアプローチと言えます¹⁷。

5.3 EU の DSM 指令 : TDM 例外とオプトアウト

二重の枠組み

デジタル単一市場における著作権指令（DSM 指令）は、テキスト・データマイニング（TDM）に関する2つの強制的な例外規定を設けています。

- **第3条**：研究機関および文化遺産機関が科学研究目的で行う TDM に対する広範な例外¹⁸。

- **第4条**：商業的な AI トレーニングを含む、その他すべての利用に対する、より限定的な例外。これは権利者による「オプトアウト」の対象となります¹⁸。

オプトアウトの仕組み

権利者は、オンラインで公開されているコンテンツについて、「機械可読な手段」（例：robots.txt、メタデータ）など「適切な方法」で権利を留保することができます⁵⁹。権利者がオプトアウトした場合、TDM 例外は適用されず、利用にはライセンスが必要となります。

比較による洞察

EU モデルは、フェアユースのような曖昧な司法的衡量を、明確で（技術的には複雑ですが）ルールに基づいたシステムに置き換えています。これにより、判断の負担が裁判所から権利者と開発者へと移行します。権利者は自らの意思を積極的に表示する必要があり、開発者はそのシグナルを尊重するシステムを構築しなければなりません。これは、訴訟リスクの結果としてではなく、制度設計としてライセンス市場を育成するアプローチです⁶⁰。

5.4 英国の変遷：EU モデルへの接近

当初の提案と反発

英国は当初、オプトアウト権を伴わない、商業目的を含む広範な TDM 例外を提案しました。これは米国の非常に寛容なフェアユース解釈に似ていますが、クリエイティブ産業からの激しい批判を受け、撤回されました⁶⁴。

現在の協議

英国政府の最新の協議（2025年2月終了）では、商業目的の広範なTDM例外と、権利者がオプトアウトする仕組みを組み合わせたEU型のモデルが有力な選択肢として検討されています⁶⁴。

ワーキンググループ

政府は、AIセクターとクリエイティブ産業の双方の代表者からなる専門家ワーキンググループを設置し、オプトアウトの透明性や技術的基準に関する実用的な解決策を模索しています⁷²。

比較による洞察

英国の政策決定プロセスは、AIと著作権を巡る政治経済学のケーススタディです。強力なクリエイティブ産業を有する国では、純粋にイノベーションのみを重視した寛容な法制度は、政治的に維持が困難であることを示しています。EUのオプトアウトモデルへの収斂は、米国以外の国々において、司法の裁量よりも権利者による明確なコントロールを優先する国際的なコンセンサスが形成されつつあることを示唆しています。

第6部：戦略的含意と将来展望

6.1 AI開発者にとって：データデューデリジェンスの新時代

中核的事業リスクとしてのデータ出所

Bartz 判決から得られる最も重要な教訓は、トレーニングデータの起源が、直接的かつ壊滅的な法的責任の源泉となりうることです。企業は「まず収集し、問題があれば後で考える」という姿勢を改めなければなりません²。

行動喚起

- **包括的なデータ監査の実施**：すべてのトレーニングコーパスに対して厳格な監査を実施し、海賊版サイトから入手された、あるいは利用規約に違反して取得されたコンテンツを特定し、除去する。
- **合法的に取得したデータの優先**：データ取得戦略を、ライセンス契約済みのデータセット、パブリックドメインの著作物、コンテンツ提供者とのパートナーシップへと移行させる²。
- **ベンダー契約の強化**：データ提供者との契約において、著作権リスクをカバーする強力な保証と補償条項を盛り込む²。
- **市場への影響のモデル化**：将来の「市場の希釈化」に関する主張に備え、自社 AI 製品が市場に与える潜在的影響をモデル化するための経済分析を積極的に実施する⁹。

6.2 コンテンツ制作者にとって：立証責任とライセンス機会

Kadrey 判決の戦略

著作権侵害訴訟で成功への道筋は、市場への損害を、洗練された証拠に基づいて立証することにかかっています。

行動喚起

- **経済専門家の関与**：訴訟の初期段階から経済学者を確保し、売上、市場シェア、Amazon ランキング、ジャンル別の収益曲線などのデータを収集・分析し、信頼性の高い市場希釈化の主張を構築する⁹。
- **具体的・定量的な損害への集中**：一般的な主張を超え、「特定の」AI モデルの出力が、「特定の」市場において、原告の作品をいかに代替する可能性が高いかを具体的に示す³。
- **ライセンス市場の活用**：法的不確実性は、勃興しつつあるライセンス市場にとって強力な触媒となります。クリエイターや出版社は、収益化とコントロールを確保するための主要戦略として、個別および団体によるライセンス契約を積極的に模索すべきです¹⁴。

6.3 勃興する「大妥協」：ライセンス契約を促進する訴訟

法廷から役員室へ

訴訟に伴う莫大なコストと不確実性は、AI 開発者と大手コンテンツホルダーの双方を、交渉による解決へと向かわせています。OpenAI や Google といった AI 企業と、News Corp や Axel Springer といった大手出版社との間で交わされた一連の注目すべきライセンス契約は、この傾向を裏付けています¹⁴。

集中管理団体の役割

個々のクリエイターや小規模な出版社にとって、直接ライセンス契約は非現実的です。Copyright Clearance Center (CCC) のような著作権等管理事業者 (CMO) が解決策を提供し始めていますが、その適用範囲はまだ限定的です⁷⁷。大規模なデータ需要と公正

な報酬を両立させるための最終的な解決策は、音楽ストリーミングにおける制度と同様の、法的または自主的な「大妥協」となる可能性があります⁸²。

6.4 将来展望：控訴審と未解決の論点

第9 巡回区控訴裁判所への道

Kadrey 判決と *Bartz* 判決の間の明確な対立は、法的安定性を確保するために第9 巡回区控訴裁判所による判断が不可欠であることを示唆しています⁷。控訴審における主要な争点は、海賊版入力データの法的地位と、市場希釈化理論の有効性となるでしょう。

Warhol 判決の影響

Warhol v. Goldsmith 事件における連邦最高裁判決は、変形的利用の広範な解釈に歯止めをかけ、商業的目的と市場への影響の重要性を再確認しました。この判決は、今後の控訴審において大きな影響力を持つと考えられます。*Warhol* 判決は、たとえ高度に変形的な利用であっても、原作と同様の商業的目的を果たす場合には侵害となりうることを示唆しており、これはクリエイター側が、AI 生成コンテンツが同じ市場で競争していると強く主張する際の根拠となるでしょう³⁴。

モデル自体は二次的著作物か？

これらの判決で未解決のまま残された根本的な問題は、トレーニング済みのモデルの重み (weights) 自体が、トレーニングデータの侵害的な二次的著作物または侵害的な複製物の集合体と見なされるか否かという点です。下級裁判所はこの理論に懐疑的な姿勢を示していますが²²、これは原告にとって、技術的に複雑ではあるものの、依然として

強力な主張の選択肢です⁸⁸。この問題は、LLMが「何であるか」という本質に関わるものであり、両当事者からの広範な専門家証言が必要となるでしょう。

引用文献

1. Landmark Ruling on AI Copyright: Fair Use vs. Infringement in Bartz v. Anthropic, 7月23, 2025 にアクセス、
<https://www.afslaw.com/perspectives/alerts/landmark-ruling-ai-copyright-fair-use-vs-infringement-bartz-v-anthropic>
2. Bartz v. Anthropic: Early Look at Copyright Claims and Generative AI - Harris Beach Murtha, 7月23, 2025 にアクセス、
<https://www.harrisbeachmurtha.com/insights/bartz-v-anthropic-early-look-at-copyright-claims-and-generative-ai/>
3. Meta Wins Legal Battle in Generative AI War: Fair Use Analysis in Kadrey v. Meta Platforms, Inc. - Fort Lauderdale Patent and Trademark Lawyer, 7月23, 2025 にアクセス、
<https://faheyiplaw.com/meta-wins-legal-battle-in-generative-ai-war-fair-use-analysis-in-kadrey-v-meta-platforms-inc/>
4. Court Sides With Meta on Fair Use and DMCA Questions, but Leaves Door Open for Future Challenges | Perkins Coie, 7月23, 2025 にアクセス、
<https://perkinscoie.com/insights/update/court-sides-meta-fair-use-and-dmca-questions-leaves-door-open-future-challenges>
5. Bartz v. Anthropic PBC | Loeb & Loeb LLP, 7月23, 2025 にアクセス、
<https://www.loeb.com/en/insights/publications/2025/07/bartz-v-anthropic-pbc>
6. From Books to Bots: Key Takeaways from the Anthropic Fair Use ..., 7月23, 2025 にアクセス、
<https://www.ropesgray.com/en/insights/alerts/2025/06/from-books-to-bots-key-takeaways-from-the-anthropic-fair-use-decision-for-ai-developers>
7. AG on Meta AI Ruling: Meta Gets a Technical Win, but the Law Favors Authors, 7月23, 2025 にアクセス、
<https://authorsguild.org/news/meta-ai-ruling-meta-gets-technical-win-but-law-favors-authors/>
8. From Input to Impact: The Market Harm Standard Emerging in AI Fair Use | JD Supra, 7月23, 2025 にアクセス、
<https://www.jdsupra.com/legalnews/from-input-to-impact-the-market-harm-2002651/>
9. Kadrey v. Meta: Will Market Dilution Reshape AI Copyright Law?- Mass Law Blog, 7月23, 2025 にアクセス、
<https://www.masslawblog.com/copyright/kadrey-v-meta-will-market-dilution-reshape-ai-copyright-law/>
10. UNITED STATES DISTRICT COURT NORTHERN DISTRICT OF CALIFORNIA RICHARD KADREY, et al., Plaintiffs, v. META PLATFORMS, INC., Defendant, 7月23, 2025 にアクセス、
<https://media.npr.org/assets/artslife/arts/2025/order1.pdf>
11. Use of Copyrighted Works for AI Training Purposes is Exceedingly, Spectacularly, and Quintessentially Transformative - Schwabe, 7月23, 2025 にアクセス、
<https://www.schwabe.com/publication/use-of-copyrighted-works-for-ai>

- [training-purposes-is-exceedingly-spectacularly-and-quintessentially-transformative/](#)
12. Anthropic faces potential business-ending liability in statutory damages after Judge Alsup certifies class action by Bartz - Chat GPT Is Eating the World, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://chatgptiseatingtheworld.com/2025/07/17/anthropic-faces-potential-business-ending-liability-in-statutory-damages-after-judge-alsup-certifies-class-action-by-bartz/>
 13. Bartz v. Anthropic: What the Ruling Means for Businesses Using AI | Mintz - JDSupra, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://www.jdsupra.com/legalnews/bartz-v-anthropic-what-the-ruling-means-1692142/>
 14. The AI licensing economy – CREATE, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://www.create.ac.uk/blog/2025/02/24/the-ai-licensing-economy/>
 15. The Hidden Economy Behind AI: Data Licensing Takes Center Stage - Kaptur, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://kaptur.co/the-hidden-economy-behind-ai-data-licensing-takes-center-stage/>
 16. Generative AI Licensing Agreement Tracker - Ithaka S+R, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://sr.ithaka.org/our-work/generative-ai-licensing-agreement-tracker/>
 17. 改正著作権法 第 30 条の 4 解説：AI・ビッグデータ時代の著作権法 - 虎ノ門法律特許事務所, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://chosakukenhou.jp/%E6%94%B9%E6%AD%A3%E8%91%97%E4%BD%9C%E6%A8%A9%E6%B3%95-%E7%AC%AC30%E6%9D%A1%E3%81%AE%EF%BC%94%E8%A7%A3%E8%AA%AC%EF%BC%9Aai%E3%83%BB%E3%83%93%E3%83%83%E3%82%B0%E3%83%87%E3%83%BC%E3%82%BF%E6%99%82/>
 18. 欧州研究図書館協会 (LIBER)、改正 EU 著作権指令で認められたテキスト・データ・マイニング (TDM) 促進のため図書館向けのガイダンス文書を公開, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://current.ndl.go.jp/car/40917>
 19. AI ガバナンスの観点からみた著作権, 7 月 23, 2025 にアクセス、
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/chosakuken/hoseido/r05_02/pdf/93935601_01.pdf
 20. Kadrey v. Meta | BakerHostetler, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://www.bakerlaw.com/kadrey-v-meta/>
 21. Kadrey et al v. Meta Platforms, Inc., No. 3:2023cv03417 - Document 280 (N.D. Cal. 2024), 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://law.justia.com/cases/federal/district-courts/california/candce/3:2023cv03417/415175/280/>
 22. Kadrey v. Meta Platforms, Inc. | Loeb & Loeb LLP, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://www.loeb.com/en/insights/publications/2023/12/richard-kadrey-v-meta-platforms-inc>
 23. Kadrey v. Meta: The First Major Test of Fair Use in the Age of Generative AI | By: Jason L. Haas: Ervin Cohen & Jessup LLP, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://www.ecjlaw.com/ecj-blog/kadrey-v-meta-the-first-major-test-of-fair-use-in-the-age-of-generative-ai-by-jason-l-haas>

24. Kadrey v. Meta Platforms, Inc. | Loeb & Loeb LLP - JDSupra, 7 月 23, 2025 にアクセス、 <https://www.jdsupra.com/legalnews/kadrey-v-meta-platforms-inc-7697932/>
25. Meta prevails on fair use in AI training in Kadrey v. Meta. But Judge Chhabria cautions a better record of dilution or market harm could prevail in other cases. - Chat GPT Is Eating the World, 7 月 23, 2025 にアクセス、 <https://chatgptiseatingtheworld.com/2025/06/25/meta-prevails-on-fair-use-in-ai-training-in-kadrey-v-meta-but-judge-chhabria-cautions-a-better-record-of-dilution-or-market-harm-could-prevail-in-other-cases/>
26. Kadrey v. Meta Decision: Did Meta Just Win the Battle, But Lose the War?, 7 月 23, 2025 にアクセス、 <https://copyrightalliance.org/kadrey-v-meta-decision/>
27. AI Companies Prevail in Path-Breaking Decisions on Fair Use | Crowell & Moring LLP, 7 月 23, 2025 にアクセス、 <https://www.crowell.com/en/insights/client-alerts/ai-companies-prevail-in-path-breaking-decisions-on-fair-use>
28. Twin California Rulings Mark a Turning Point for AI-Copyright Fair Use, 7 月 23, 2025 にアクセス、 <https://frblaw.com/twin-california-rulings-mark-a-turning-point-for-aicopyright-fair-use/>
29. Five things to know about the Kadrey et al. v. Meta Platforms, Inc. fair use decision, 7 月 23, 2025 にアクセス、 <https://www.goodjourneyconsulting.com/blog/five-things-to-know-about-the-kadrey-et-al-v-meta-platforms-inc-fair-use-decision>
30. Meta Wins on Fair Use for Now, but Court Leaves Door Open for “Market Dilution”, 7 月 23, 2025 にアクセス、 <https://www.authorsalliance.org/2025/06/26/meta-wins-on-fair-use-for-now-but-court-leaves-door-open-for-market-dilution/>
31. Kadrey et al v. Meta Platforms, Inc., No. 3:2023cv03417 - Document 598 (N.D. Cal. 2025), 7 月 23, 2025 にアクセス、 <https://law.justia.com/cases/federal/district-courts/california/candce/3:2023cv03417/415175/598/>
32. Bartz v. Anthropic | BakerHostetler, 7 月 23, 2025 にアクセス、 <https://www.bakerlaw.com/bartz-v-anthropic/>
33. Bartz et al. v. Anthropic PBC - 3:24-cv-05417 - Class Action Lawsuits, 7 月 23, 2025 にアクセス、 https://www.classaction.org/media/bartz-et-al-v-anthropic-pbc_1.pdf
34. Mixed Decision in Anthropic AI Case: Authors Guild Responds to Summary Judgment in Bartz v. Anthropic, 7 月 23, 2025 にアクセス、 <https://authorsguild.org/news/mixed-decision-in-anthropic-ai-case/>
35. CA District Court Rules That Copyrighted Content Used for Training AI is 'Fair Use', 7 月 23, 2025 にアクセス、 <https://www.bartonesq.com/news-article/ca-district-court-rules-that-copyrighted-content-used-for-training-ai-is-fair-use/>
36. AI Training and Fair Use: US Federal Court Delivers a Landmark Ruling in Bartz v. Anthropic, 7 月 23, 2025 にアクセス、 <https://herzoglaw.co.il/en/news-and-insights/ai-training-and-fair-use-us-federal-court-delivers-a-landmark-ruling-in->

- [bartz-v-anthropic/](#)
37. Federal Courts Find Fair Use in AI Training: Key Takeaways from Kadrey v. Meta and Bartz v. Anthropic - Jackson Walker, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://www.jw.com/news/insights-kadrey-meta-bartz-anthropic-ai-copyright/>
 38. Bartz v. Anthropic: Mapping Fair-Use Boundaries in the Age of Generative AI, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://truthonthemarket.com/2025/06/24/bartz-v-anthropic-mapping-fair-use-boundaries-in-the-age-of-generative-ai/>
 39. Anthropic and Meta fair use rulings on AI model training - McDermott Will & Emery, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://www.mwe.com/insights/anthropic-and-meta-fair-use-rulings-on-ai-model-training/>
 40. Two US decisions find that reproducing works to train large language models is fair use – Part 1: Bartz v Anthropic - Norton Rose Fulbright, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://www.nortonrosefulbright.com/en-us/knowledge/publications/afb0e10b/two-us-decisions-find-that-reproducing-works-to-train-large-language-models-is-fair-use>
 41. New Anthropic motion wants book authors' copyright case to become first AI fair use appeal on U.S. West Coast (Ninth Circuit), 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://aifray.com/new-anthropic-motion-wants-book-authors-copyright-case-to-become-first-ai-fair-use-appeal-on-u-s-west-coast-ninth-circuit/>
 42. Does AI 'Dilute' the Market for Books Written by Human Authors? Two Courts Weigh In, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://www.library.upenn.edu/news/ai-books>
 43. From Input to Impact: The Market Harm Standard Emerging in AIFair Use | Alerts and Articles | Insights | Ballard Spahr, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://www.ballardspahr.com/insights/alerts-and-articles/2025/07/from-input-to-impact-the-market-harm-standard-emerging-in-ai-fair-use>
 44. 著作権法改正 新 30 条の 4 - スター綜合法律事務所, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://www.star-law.jp/news/304.html>
 45. AI と著作権に関する考え方について - 文化庁, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/chosakuken/bunkakai/69/pdf/9402280101.pdf>
 46. 日本の生成 AI についての政策の分岐点：著作権法 30 条の 4 ではなぜだめなのか?, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://www.yuasa-hara.co.jp/lawinfo/5047/>
 47. 解説・「AI と著作権に関する考え方について」 - 文化庁, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/pdf/9409770102.pdf>
 48. 機械学習への著作権法 30 条の 4 の適用について - 日本大学法学部, 7 月 23, 2025 にアクセス、
https://www.publication.law.nihon-u.ac.jp/pdf/property/property_18/each/08.pdf
 49. AI と著作権の問題！イラスト・画像生成や機械学習の適法性について解説, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://kigyobengo.com/media/useful/3370.html>
 50. 「AI と著作権に関する考え方について（素案）」の公表 - 牛島綜合法律事務所, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://www.ushijima-law.gr.jp/client->

- [alert_seminar/client-alert/20240116ai_copyright/](#)
51. AIと著作権に関する考え方について - 文化庁, 7月23, 2025 にアクセス、
<https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/chosakuken/pdf/9403790101.pdf>
 52. 文化庁「AIと著作権に関する考え方について（素案）令和6年1月15日時点版」の検討, 7月23, 2025 にアクセス、<https://storialaw.jp/blog/10470>
 53. R6.3.15 版「AIと著作権に関する考え方について」の速報解説① - note, 7月23, 2025 にアクセス、https://note.com/k_maeno/n/n92e21c44fa8d
 54. Directive on Copyright in the Digital Single Market - Wikipedia, 7月23, 2025 にアクセス、
https://en.wikipedia.org/wiki/Directive_on_Copyright_in_the_Digital_Single_Market
 55. Text and Data Mining: (Articles 3 and 4 of the EU-DSM) by REBIUN's Copyright working group | Library Policy and Advocacy Blog, 7月23, 2025 にアクセス、
<https://blogs.ifla.org/lpa/2020/06/10/text-and-data-mining-articles-3-and-4-of-the-eu-dsm/>
 56. L_2019130EN.01009201.xml - EUR-Lex - European Union, 7月23, 2025 にアクセス、
<https://eur-lex.europa.eu/legal-content/EN/TXT/HTML/?uri=CELEX:32019L0790>
 57. Saving research: Lawful access to unlawful sources under Art. 3 CDSM Directive?, 7月23, 2025 にアクセス、
<https://copyrightblog.kluweriplaw.com/2023/12/22/saving-research-lawful-access-to-unlawful-sources-under-art-3-cdsm-directive/>
 58. Text and data mining in EU | Entertainment and Media Guide to AI | Perspectives, 7月23, 2025 にアクセス、
<https://www.reedsmith.com/en/perspectives/ai-in-entertainment-and-media/2024/02/text-and-data-mining-in-eu>
 59. Mining for exceptions in the new copyright directive - Arthur Cox LLP, 7月23, 2025 にアクセス、
<https://www.arthurcox.com/knowledge/mining-for-exceptions-in-the-new-copyright-directive/>
 60. The TDM Opt-Out in the EU – Five Problems, One Solution - Kluwer Copyright Blog, 7月23, 2025 にアクセス、
<https://copyrightblog.kluweriplaw.com/2025/04/22/the-tdm-opt-out-in-the-eu-five-problems-one-solution/>
 61. CC Statement on the TDM Exception Art 4 DSM - Final - Creative Commons, 7月23, 2025 にアクセス、
<https://creativecommons.org/wp-content/uploads/2021/12/CC-Statement-on-the-TDM-Exception-Art-4-DSM-Final.pdf>
 62. How to 'opt-out' your images from use in AI training: German court considers the EU text and data mining copyright exceptions - Lewis Silkin LLP, 7月23, 2025 にアクセス、
<https://www.lewissilkin.com/insights/2024/10/07/how-to-opt-out-your-images-from-use-in-ai-training>
 63. text and data mining opt-out in Article 4(3) CDSMD: Adequate veto right for

- rightholders or a suffocating blanket for European artificial intelligence innovations? | Journal of Intellectual Property Law & Practice | Oxford Academic, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://academic.oup.com/jiplp/article/19/5/453/7614898>
64. Copyright and artificial intelligence: Impact on creative industries - House of Lords Library, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://lordslibrary.parliament.uk/copyright-and-artificial-intelligence-impact-on-creative-industries/>
 65. Mind the Copyright: The UK's AI and Copyright Conundrum | Articles | Finnegan | Leading IP+ Law Firm, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://www.finnegan.com/en/insights/articles/mind-the-copyright-the-uks-ai-and-copyright-conundrum.html>
 66. Training AI models: UK Government proposes EU style "opt out" copyright exception, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://www.dlapiper.com/insights/blogs/mse-today/2025/training-ai-models-uk-government-proposes-eu-style-opt-out-copyright-exception>
 67. UK Government's Consultation on Copyright and AI: What's Next for AI Developers and Creators? - Charles Russell Speechlys, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://www.charlesrussellspeechlys.com/en/insights/expert-insights/ai/uk-governments-consultation-on-copyright-and-ai-whats-next-for-ai-developers-and-creators/>
 68. Copyright and Artificial Intelligence - GOV.UK, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://www.gov.uk/government/consultations/copyright-and-artificial-intelligence/copyright-and-artificial-intelligence>
 69. How can AI and copyright co-exist? - UK Government re-consults, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://www.simmons-simmons.com/en/publications/cm5v8hen106d8tr0k3psasqxi/uk-ai-copyright-policy>
 70. Interplay of AI and copyright law: how do the options proposed in the UK's recent consultation compare with the EU's general TDM exception?, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://cms-lawnow.com/en/ealerts/2025/01/interplay-of-ai-and-copyright-law-how-do-the-options-proposed-in-the-uk-s-recent-consultation-compare-with-the-eu-s-general-tdm-exception>
 71. The UK's new AI-copyright consultation: a path to clarity or controversy? - Dentons, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://www.dentons.com/en/insights/articles/2025/january/2/the-uks-new-ai-copyright-consultation-a-path-to-clarity-or-controversy>
 72. AI and copyright working groups established in the UK, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://www.pinsentmasons.com/out-law/news/ai-copyright-working-groups-uk>
 73. Creative and AI sectors meet as UK Government launches AI and copyright working groups, 7 月 23, 2025 にアクセス、

- <https://www.jdsupra.com/legalnews/creative-and-ai-sectors-meet-as-uk-9840026/>
74. Creative and AI sectors meet as UK Government launches AI and copyright working groups, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://www.hoganlovells.com/en/publications/creative-and-ai-sectors-meet-as-uk-government-launches-ai-and-copyright-working-groups>
 75. DACS to participate in UK Government Working Groups on AI and Copyright, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://www.dacs.org.uk/news-events/working-groups-on-ai-and-copyright>
 76. Glaring Omissions from the Kadrey v. Meta Hearing | Copyright Alliance, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://copyrightalliance.org/kadrey-v-meta-hearing/>
 77. Using Copyrighted Content to Train AI: Can Licensing Bridge the Gap?, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://hughstephensblog.net/2025/03/01/using-copyrighted-content-to-train-ai-can-licensing-bridge-the-gap/>
 78. News generative AI deals revealed: Who is suing, who is signing? - Press Gazette, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://pressgazette.co.uk/platforms/news-publisher-ai-deals-lawsuits-openai-google/>
 79. NYT sues OpenAI and Microsoft in latest AI copyright spat - Pinsent Masons, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://www.pinsentmasons.com/out-law/news/nyt-sues-openai-and-microsoft-in-latest-ai-copyright-spat>
 80. Pro-Copyright, Pro-AI: The Power of Collective Licensing - Columbia Library Journals, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://journals.library.columbia.edu/index.php/lawandarts/article/download/13923/7688/39451>
 81. The Interplay Between Copyright Licensing and Exclusive Rights; AI Edition, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://scholarlykitchen.sspnet.org/2024/05/14/the-interplay-between-copyright-licensing-and-exclusive-rights-ai-edition/>
 82. Consent and Compensation: Resolving Generative AI's Copyright Crisis, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://virginialawreview.org/articles/consent-and-compensation-resolving-generative-ais-copyright-crisis/>
 83. U.S. Copyright Office Panel Kicks the Tires on Potential Licensing Models for AI Training, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://www.dentons.com/en/insights/alerts/2025/march/3/us-copyright-office-panel-kicks-the-tires-on-potential-licensing-models-for-ai-training>
 84. Artificial Intelligence and Transformative Use After Warhol, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://scholarlycommons.law.wlu.edu/wlulr-online/vol181/iss1/2/>
 85. Supreme Court Clarifies 'Transformative' Art in the Context of Copyright 'Fair Use' - Frost Brown Todd, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://frostbrowntodd.com/supreme-court-clarifies-transformative-art-in-the-context-of-copyright-fair-use/>
 86. Landmark Warhol Decision Reins in Transformative Fair Use - Copyright Alliance, 7 月 23, 2025 にアクセス、
<https://copyrightalliance.org/warhol-decision-reins->

[transformative - fair-use/](#)

87. The Supreme Court Case of Andy Warhol Foundation v. Goldsmith: What, if Anything, Does it Mean to Artificial Intelligence? - Copyright Clearance Center, 7 月 23, 2025 にアクセス、 <https://www.copyright.com/blog/the-supreme-court-case-of-andy-warhol-foundation-v-goldsmith-what-if-anything-does-it-mean-to-artificial-intelligence/>
88. Is it legal to use copyrighted works to train LLMs? - Diomidis Spinellis home page, 7 月 23, 2025 にアクセス、 <https://www.spinellis.gr/blog/20250626/>
89. Copyright Liability for LLM Outputs | CCC, 7 月 23, 2025 にアクセス、 <https://www.copyright.com/blog/copyright-liability-for-llm-outputs/>
90. Copyright Office Weighs In on AI Training and Fair Use | Skadden, Arps, Slate, Meagher & Flom LLP, 7 月 23, 2025 にアクセス、 <https://www.skadden.com/insights/publications/2025/05/copyright-office-report>